



■ テーマ名

ウクライナ研究、イギリス検認遺産目録研究

■ キーワード

ウクライナ研究、日本・ウクライナの2国間関係、イギリス経済史、経営史、社会史

■ 研究の概要

・ ウクライナ研究：

ウクライナの政治・経済・文化・歴史全般に関する研究を行っている。特に現地の政治リーダーとの面会を通じて、ウクライナ国内の政治事情やそれが国際情勢に及ぼす影響について論じている。また、机上の研究だけではなく、実際にウクライナとの交流にも携わっている。それらの知見を基に、ウクライナにおける経済環境やビジネス・チャンスについても分析している。



ウクライナ最高会議(国会)で講演

・ イギリス検認遺産目録研究：

動産のリストである検認遺産目録には家財に関する具体名や価値が記載されるため、それを分析すれば当時の生活様式や消費の実態について多くの情報が得られるのではないかと考えられてきた。しかし、イギリスに現存する遺産目録の多くは長年未整理のままで、作成過程をはじめとする明確な実態はいまだ不明な点が多い。その一方で地方レベルでの遺産目録の整理は史料協会 (Record society) とアーキビストによって精力的にすすめられている。主な分析手法としては原本を活字化する作業を継続して行っている。主な分析対象の史料は、ブリストル市公文書館 (Bristol Record Office) とイギリス国立公文書館 (The National Archive) に所蔵されているカンタベリー大権裁判所 (Prerogative Court of Canterbury) の検認記録である。

■ 他の研究/技術との相違点

ウクライナ研究では、現在、国際ウクライナ学会日本支部であるウクライナ研究会の会長を務めるほか、同国の高級官僚養成機関であるウクライナ大統領附属国家行政アカデミーや、ウクライナ国立農業科学アカデミーアグロ・エコロジー環境マネジメント研究所と所属の経済学部の学術協定にもつながり、机上の研究だけではなく、両国間交流にも貢献している。

■ 今後の展開、実用化へのイメージ

ウクライナのさまざまな大学・研究機関との2国間関係をテーマとした国際会議の開催。

■ 関連業績 (特許・文献)

著書『ウクライナを知るための65章』明石書店、2018年。

著書『イギリス検認遺産目録研究』晃洋書房、2015年。

著書『マイダン革命はなぜ起こったかーロシアとEUのはざままでー』ドニエブル出版、2016年。

受賞 ウクライナ大統領附属国家行政アカデミー名誉教授

受賞 ウクライナ最高会議章

■ 研究者から一言

イギリス経済史のメインテーマ「検認遺産目録」は当時の生活様式が見られる数少ない史料です。ウクライナ研究については、少なくとも年2回は訪問するウクライナの実際の姿を紹介することに力をいれています。